

# 行政視察報告書

令和 6 年 11 月 27 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 兼本 光治

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	市民経済委員会 行政視察
2. 期 間	令和6年11月11日(月)～令和6年11月13日(水)
3. 視 察 先	①東京都 ②東京都千代田区
4. 調査内容	①東京港について ②国際交流について・猫問題について
5. 参加者	〔市民経済委員会〕 委員長 兼本 光治 副委員長 高屋 優 委員 伊礼 正、大城 直、玉城 政哉、仲程 孝 事務局 伊藤 靖
6. 視察先 対応者	①東京都港湾局港湾経営部港湾営業専門課長 東京都港湾局港湾経営部振興課統括課長代理 計2人 ②千代田区議会事務局職員 地域振興部国際平和・男女平等人権課長、国際平和係長、職員 保健福祉部地域保健担当部長・千代田保健所長 保健福祉部参事、保健福祉部地域保健課動物愛護担当係長 計7人
7. 概要及び所見	<u>※写真など挿入可。</u>  ①東京港について うるま市における、洲崎地区の港湾行政、今後の在り方について市民経済委員会・行政視察を行いました。 東京都港湾局の調査資料による説明と、現地視察を行う。  東京港の概要 ・外貿コンテナ貨物輸出25%・外貿コンテナ輸入75%港の性格、特徴の説明を受ける。 ・輸出物が、古紙・産業機械・自動車部品・電気機器などの産業品が多い。 ・輸入は、衣類・家具装備品・食品・生活関連品目が主である。 ・貿易国は、北米・欧州・アジア航路が充実と説明を受ける。 ・東京港が、全国の外貿コンテナの四分の一を取り扱う。

- ・外国から入ってくる貨物は、仙台港から東京港、博多港、国内各港へ海上就航される。沖縄の、ふ頭航路もありました。

○化物量の輸入輸出の推進と、港湾内の施設取組が早急ではないかと思う。

- ・犯罪等や環境破壊等を港湾内で、未然に防ぐ対策として、税関や検疫施設が早急と考えられる。

東京港の環境対策

- ・脱炭素化を戦略的にカーボンニュートラルの推進に取り組んでいると説明を受ける。

○うるま市州崎地区においても、税関や検疫、カーボンニュートラルの取組が、港湾推進事業の取組と並行。

②東京都千代田区「国際交流について」

千代田区における多文化共生の現状

- ・区の取り組み・国際交流、協力ボランティアの充実が素晴らしい。
- ・東京都心の中で、千代田区の国際社会からなる交流事業がある。事業取組は素晴らしい。

③東京都千代田区「猫問題について」

- ・去勢・不妊手術費助成について、ボランティアと共に（猫）一代限りの命や、地域活動の取り組み、助成金の充実、放し飼いをしない意識の高さがある。
- ・オス・メスの手術頭数のピーク時108頭が、令和5年は1頭の実績。
- ・安易な猫へのえさやりや、糞尿悪臭被害はない。
- ・新たな飼い主のために、千代田猫まつりを開催、令和6年度で10回目の開催。

○うるま市においても、去勢事業や、地域ボランティアの立ち上げができないか。

- ・安易なえさやり、糞尿対策について考える。

千代田区「犬」に関する取組について

①助成事業

地域活動で、譲渡目的で保護した猫にかかる動物病院での医療費や保護施設の一部助成。

- ・24年間の事業の中で、区と連携してボランティアを募集し、特定非営利活動法人ちよだニャン会が設置される。
- ・年度手術頭数が多い平成15年度213頭から、令和5年度には、1頭の事業実績である。

# 行政視察報告書

令和 6 年 11 月 22 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 高屋 優

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	市民経済委員会 行政視察
2. 期 間	令和6年11月11日(月)～令和6年11月13日(水)
3. 視 察 先	①東京都 ②東京都千代田区
4. 調査内容	①東京港について ②国際交流について・猫問題について
5. 参加者	〔市民経済委員会〕 委員長 兼本 光治 副委員長 高屋 優 委員 伊礼 正、大城 直、玉城 政哉、仲程 孝 事務局 伊藤 靖
6. 視察先 対応者	①東京都港湾局港湾経営部港湾営業専門課長 東京都港湾局港湾経営部振興課統括課長代理 計2人 ②千代田区議会事務局職員 地域振興部国際平和・男女平等人権課長、国際平和係長、職員 保健福祉部地域保健担当部長・千代田保健所長 保健福祉部参事、保健福祉部地域保健課動物愛護担当係長 計7人
7. 概要及び所見	<u>※写真など挿入可。</u>
所見 1. 東京港の概要 令和5年に取り扱った貨物の総量は約8,200万トンでした。輸入と輸出の比率は約3:1となっており、輸入港としての性格が強いことが特徴です。外貿コンテナ貨物の品目別取扱量については、輸出では古紙などの再利用資材のほか、産業機械・自動車部品・電気機器などの産業用品目が多く、輸入では衣類・家具・食品などの生活関連品目が多い状況です。東京港内には4つのコンテナふ頭が整備されており、年間400万TEU(6mコンテナ)以上のコンテナを取り扱っています。ふ頭のバース数は17あり、岸壁の延長は5,000mにも及びます。また、東京港の港路には、東日本の生活と産業を支えるために北米、欧州、アジアなどを結ぶ多様な航路が整備されています。 東京港の背後には首都東京を中心とする充実した道路ネットワークが形成されており、交通利便性の高い臨海部や環状道路沿線に、大型物流倉庫の立地が進展しています。一方で、東京港ではコンテナふ頭の処理能力を大幅に上回るコンテナを取り扱っており、季節や時	

間帯によってはふ頭周辺で交通渋滞が発生しています。

外貿コンテナの取扱量は一貫して増加傾向にあります。標準的な処理能力を大きく超える状態が続いています。また、ふ頭が市街地に隣接しているため、ふ頭の拡張が非常に困難です。特に夕方には貨物を引き取る車両が集中し、さらに、午前中に納品するよう荷主から指示されるトラックが多いため、前日の夕方にコンテナ車が集中する傾向が強く見られました。

## 2. 所見

東京港は、うるま市中城湾港新港地区の 200 倍以上の規模を誇り、首都圏の交流人口 4,000 万人の衣・食などの生活を支える関連品目の物流が整備されています。今回の視察は、うるま市中城湾港新港地区でどのような発展が可能かを学ぶ良い機会となりました。沖縄県には既に那覇港があり、物流の多くは那覇港で行われていますが、沖で待機している船もいる状況です。中城湾港の利用については現在、定期航路が少ない状態ですが、物流、リサイクルポート、さらには中古車の輸出入に重点を置き、さらなる発展を目指しています。東京港とは規模は異なりますが、州崎「新港地区」のさらなる発展を見据え、先進地の知見を取り入れることで、沖縄県東海岸の成長に貢献できるよう努めてまいります。

## 1. 千代田区における多文化共生の現状概要

千代田区の人口は 69,000 人で、その約 5.8%にあたる 4,000 名が外国人です。主な出身国は中国、韓国、台湾、アメリカ、ベトナム、インド、フランスなど、計 72 カ国に及びます（以前、フランスの学校があったため、フランスからの住民も多いです）。国際交流やボランティア活動に関わる方々も多く、ボランティア団体は 100 を超えています。

## 2. 実施体制の課題

外国人住民向けのウェブサイトの閲覧が少ないという指摘がありました。

## 3. 具体的な取組例

千代田区では、外国人住民向けのウェブサイトの運営や、ボランティアバンク、ボランティア養成講座を実施しています。また、国際交流フェア（事業費 500 万円、約 1,200 名が参加）や、30 歳未満を対象とした海外事情調査事業として 6 日間の国際交流体験ツアー（事業費 1,000 万円、12 名が参加）も行っています。

## 4. 大使館との連携交流

令和 5 年度には、区内の大使館等と連携した交流活動を通じて、国際教育の推進を図っています。千代田区立学校園の中には、大使館との積極的な交流活動を進めている学校園があり、様々な国との文化交流や体験活動を通して、国際社会で活躍できる人材に必要な能力の育成に取り組んでいます。

## 5. 所見

うるま市には大使館は無いものの、米軍基地や日本語学校といった外国人が少なからずいます。青少年育成の観点から、国際交流を推進するにあたっての交流活動を考えていく必要があると感じました。

## 1. 千代田区における猫に関する取り組み概要

千代田区では、①助成事業と②普及啓発活動を行っています。

助成事業としては、地域猫活動（TNR）や譲渡を目的とした保護猫に対する医療費や、動物保護施設での費用の一部を補助しています。

普及啓発活動としては、NPO 団体や地域の保護猫活動家と協力して「ちよだ猫まつり」を開催し、飼い主に対してペットの適正飼養や終生飼養を周知することで、動物愛護の精神を高める取り組みを行っています。

## 2. 実施体制の課題

猫に関する事業予算が 1,400 万円を超えているため、議会では「予算をかけすぎではないか」という厳しい意見が出ています。

## 3. 具体的な取組例

TNR を徹底した結果、平成 22 年度を境に手術件数が減少し、平成 23 年には全国に先駆けて「殺処分ゼロ」を達成しました。現在も「殺処分ゼロ」を継続しています。また、NPO 法人「ちよだニャンとなる会」と共催で「ちよだ猫まつり」を開催し、チャリティで集まった参加費や募金の一部を医療費に充てています。イベントでは、猫の餌などの寄付を受け付け、オンラインや公園での譲渡会も同時開催することで、啓発活動に貢献しています。

## 4. TNTA の導入

千代田区では、TNTA (Trap Neuter Tame Adopt = 捕獲/去勢・不妊治療/人に慣らす/譲渡) を導入し、地域猫が病気や怪我をした際の医療費の一部を助成しています。

## 5. 所見

うるま市では、餌やりや糞尿被害に関する市民からの苦情がある一方で、猫を守るために活動しているボランティア団体も存在しています。地域コミュニティを形成するうえで、TNR 活動に対する予算の確保が必要であり、地域猫として地域に戻す場所の選定も重要です。また、啓発活動は行政とボランティア団体が連携して行う必要があります。TNR 後の猫を需要のある地域へ譲渡する機会も提供すべきだと感じました。

千代田区では、TNR の効果により自然淘汰が進んだ実績がありますので、うるま市としても同様の取り組みを進めていくべきだと考えています。しかし、予算の問題は避けて通れず、一度限りの投資ではなく、持続的な支援が求められます。そのため、予算の確保とその適切な使い道については慎重に検討する必要があります。また、市民の理解と協力を得るための広報活動や啓発活動も重要です。地域猫活動が地域全体の利益につながることを伝えるために、成功事例の紹介や、地域猫活動が市民生活にどのように貢献するかを示すことで、住民の理解を深め、協力を促進することが求められます。

うるま市においても、千代田区の成功事例を参考にしながら、地域に適したアプローチを模索し、効果的な猫の管理と共存を目指していきたいと考えています。

# 行政視察報告書

令和 6 年 11 月 26 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 伊礼 正

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	市民経済委員会 行政視察
2. 期 間	令和6年11月11日(月)～令和6年11月13日(水)
3. 視 察 先	①東京都 ②東京都千代田区
4. 調査内容	①東京港について ②国際交流について・猫問題について
5. 参加者	〔市民経済委員会〕 委員長 兼本 光治 副委員長 高屋 優 委員 伊礼 正、大城 直、玉城 政哉、仲程 孝 事務局 伊藤 靖
6. 視察先 対応者	①東京都港湾局港湾経営部港湾営業専門課長 東京都港湾局港湾経営部振興課統括課長代理 計2人 ②千代田区議会事務局職員 地域振興部国際平和・男女平等人権課長、国際平和係長、職員 保健福祉部地域保健担当部長・千代田保健所長 保健福祉部参事、保健福祉部地域保健課動物愛護担当係長 計7人
7. 概要及び所見	視察先：①東京都 調査内容：①東京港について 東京都は東京港の物流効率化や環境負荷軽減を図るため、海上コンテナの国内輸送において、モーダルシフトを行う民間事業者に対する支援を行っている。支援の事業として、東京港を利用する船舶運航事業者への【フィーダー輸送事業】・はしけ横持輸送を依頼する者（船舶運航事業者等）の【はしけ横持運送事業】・支援の新規として港内横持運送事業（船舶）への支援がある。 又、東京港ではこれまで、太陽光発電などの設置や省エネ型の荷役機械の導入を推進し、令和6年度は、再エネ由来電力の導入拡大や水素エネルギーへの転換を進めるなど、脱炭素化を加速している。 具体的には、港湾トレーラーの脱炭素化・RTGの水素活用・令和6年4月から、全てのコンテナふ頭に導入拡大をしている。 更に、東京港ではコンテナふ頭の処理能力を大幅に上回るコンテナを取り扱ってお

り、季節や時間帯によって、ふ頭周辺では交通混雑が発生している。

それらの対処策として東京港の混雑解消に向けて東京港の機能強化の必要性として、1:中央防波堤外側コンテナふ頭の整備 2;違法駐車 3:車両待機場場 4;コンテナ関連施設の整備 5;東京港ストックヤードの解説 6:早朝ゲートオープンを実施してゲート前の渋滞長が対策を講じ、以前と比較して約71%減少している。

東京港における令和5年に取り扱った貨物の総計は8200万トンで、輸入・輸出率(重量ベース)は約3:1となっており、輸入港としての性格が強いという特徴が見られる。

輸出は、古紙などの再利用資材のほか産業機械・自動車部品・電気機械などの産業用品目が多い。

又、輸入は衣類・家具整備品・食品などの生活関連品目が多い。

視察を通じ、沖縄は位置的にアジアの中心地である中城湾港が、東アジアの中心に位置する地理的優位性等を生かしその立地条件を活かして万国津梁港としての役目を大いに期待したいと考える。

中城湾港は、物資の円滑な流通を確保するための流通拠点として整備されてきている。ハブ港としてますます重要な位置づけを期待し、産業の振興や雇用機会の創出、産業構造の改善並びに県土の均衡ある発展に資するための工業用地を整備する等、流通機能と生産機能を併せ持った流通加工港湾として整備を進め、うるま市の活性化に繋がることを期待する。



視察先：②東京都千代田区

調査内容：①国際交流について

千代田区は、「国際平和都市千代田区宣言】に基づき、区民参加の海外事情調査事業(国際交流体験ツアー)を平成14年から実施している。区内の青少年を海外に派遣し、人類が抱えている共通の課題に対し主体的に考え、積極的に行動していける人材育成を図り、あわせて地域社会における国際交流・協力の推進を図ることを目的としている。

令和5年度も公募により選ばれた区内の高校生7名、大学生4名、社会人1名の計12名を12月11日から12月16日までの6日間グアム・サイパンへ派遣実施をしている。

現地ではバンザイクリフなど第二次世界大戦の戦跡や現地の文化に関する施設を訪問している。

又、グアム大学を訪問し現地の学生と意見交換を実施している。更にはサイパン在住の戦争体験者による戦争体験講話を直接聞くなど、「平和」や「人権」について、グアムやサイパンが歩んだ歴史を学んでいる。

区民参加の海外事情調査事業は、国際理解の推進と世界の恒久平和について、時代を担う区民が関心を持つ事に活かされていく事を事業としている。

区内においては「地域の国際化」・外国人住民支援・」などを実施し、国際交流・協力ボランティアの要請を実施している。

各国大使館との連携交流に関しても多義にわたりたり組んでおり、交流のある国々と国際交流フェアなどに取り組んでいる。

国際交流派遣事業に関し、実施後の追跡調査や派遣後の地域に関する貢献について質疑をおこなったが、現時点ではされていないとのことであった。単なる個人での交流や視察に終わることなく、個人が得た経験を活かすことに繋げていくことが重要であると感じた。

視察を踏まえ、うるま市も市内には外国人住民が多数いることから、彼らとの交流を通して、うるま市の未来を担う青少年が世界へ羽ばたける様な国際交流を、行政が率先してその環境をつくっていく様に期待する。また、うるま市では海外の県出身者2世・3世の文化交流事業で長期受入などを実施し琉球芸能や文化を伝承する事業を今年の秋も実施しているが、単なる三線など技術伝承・芸能伝承にとどまらず、双方向の文化交流や自治会レベルでの地域との取り組みなど、多文化共生に繋がるような事業へ拡大発展していくべきであると考えます。



視察先：②東京都千代田区

調査内容：猫問題について

平成10年度に東京都の調査から都内の飼い主のいない猫は11万頭生息していると発表があり、千代田区では「排泄物が臭い汚い」、「外猫が子猫を産んだ」など区民から外で暮らす猫に対して意見や苦情が寄せられていた。

平成12年度から「飼い主のいない猫」事業への取り組みが始まった。事業として「TNR：捕獲・去勢・不妊手術・元に場所に戻す」を実施する。

平成25年頃から手術済の地域猫が交通事故に遭ったり、高齢猫が病気等にかかり倒れたりして、それらを見た区民から保護して欲しいと言う苦情等が寄せられて従来のTNRだけでは十分ではなく、TNTA（捕獲・去勢・不妊手術・人に慣らす・譲渡）の事業に取り組む。

そして平成27度からは譲渡が決まるまでにかかる医療費の一部助成を実施する。医療費の助成として「ケガ病気の治癒費助成」・「預かり入院費助成」を実施する。

又、平成30年頃から動物の相談支援体制整備事業を始める。その事業は飼い主がいない猫だけでなく、飼い主がいるが飼育困難になった犬猫を対象としている。医療費助成の対象経費も保護から退院するまでに経費・隔離期間の入院費・治療費・健康診断や予防接種費など多義にわたる。

更には犬猫に入院の長期化によって、又、多頭飼育崩壊が起こった場合に動物病院の長期入院では対応が難しいために「シェルター補助金制度」の開始を始めるなど、保護した者（団体含む）が金銭的負担を少なく譲渡まで出来るように医療費の一部を助成している。

平成12年度から延べ約2,500頭以上の去勢・不妊手術をボランティアの協力で行い、不幸な猫たちをこれ以上増やさないよう取り組んでいる。その成果は外猫犬の件数は減少して稀にしか確認出来ないなど、大きな成果として現れている。

うるま市内においても飼い主のいない犬猫の把握が急務であります。その対応策も早急に講じるべきではと考える。

藪地島や人家がない場所に、動物（犬・猫・鶏）の遺棄・処分をする人がおり、動物の命の尊さを考え、うるま市が地域と連携して取り組んでいくことが必要であると考える。



# 行政視察報告書

令和 6 年 11 月 27 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 大城 直

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	市民経済委員会 行政視察
2. 期 間	令和6年11月11日(月)～令和6年11月13日(水)
3. 視 察 先	①東京都 ②東京都千代田区
4. 調査内容	①東京港について ②国際交流について・猫問題について
5. 参加者	〔市民経済委員会〕 委員長 兼本 光治 副委員長 高屋 優 委員 伊礼 正、大城 直、玉城 政哉、仲程 孝 事務局 伊藤 靖
6. 視察先 対応者	①東京都港湾局港湾経営部港湾営業専門課長 東京都港湾局港湾経営部振興課統括課長代理 計2人 ②千代田区議会事務局職員 地域振興部国際平和・男女平等人権課長、国際平和係長、職員 保健福祉部地域保健担当部長・千代田保健所長 保健福祉部参事、保健福祉部地域保健課動物愛護担当係長 計7人
7. 概要及び所見	※写真など挿入可。
① 東京港について	【所見】 ・東京港の視察に行く前に中城湾港新港地区を視察して、予備知識を得てから、東京港視察に行きましたが、首都圏の生活と産業を支える港湾として、東京都港湾局が運用している広大なエリアに中城湾港とは比べ物にならないことに驚きでした。 ・中城湾港とは比較にならないエリアを運用しているのに、今も、岸壁を400m奥行450m埋立て整備中であるとの事で、また、驚きでした。 ・貨物取扱量の55%が外貨貨物で、45%が内貨貨物であり、輸入が主である中で、衣料と食物が主であるが、輸入と輸出の割合が3:1で輸入割合が多い状況 ・中城湾港も積み込む荷が少ないために入港船が少ないとのことなので、積荷を対等にするだけでなく、必要とされる積荷に目を向ける必要があると思います。 ・近年では、コンテナ貨物が増え、トラックの荷待ち混雑と交通混雑が問題となり、コンテナターミナルのオープンを1時間早めるなどでよくなったが、道路の整備が課題との事だが、中城湾港にも言えることである。

## ② 国際交流について

### 【所見】

・千代田区には、18か国の大使館があり、そのつながりをもとに、1こども園、2小学校、1中学校、1中等教育学校に各国大使館を割り当てて他国との異文化交流の機会を与え交流活動を実施している。

・国際平和・男女平等 인권課の取組として、国際交流フェアを今年度開催し、10か国の大使館が参加協力し、どなたでも参加ボランティアイベントが開催された。(予算500万)

・海外事情調査事業(国際交流体験ツアー)を実施し、令和5年はグアム・サイパンへ派遣、令和6年には12月に、シンガポールへ派遣予定との事

・外国人住民支援として、ちよだボランティアセンターの下、ボランティア活動を行う団体が、120団体ほどあり、国際交流・協力ボランティア養成講座を3回実施された。

※うるま市も米軍施設があるので、異文化交流の可能性があると思います。

## ③ 猫問題について

### 【所見】

・千代田区猫(犬)に関する取組については、千代田保健所地域保健課が窓口となり、平成12年から事業を実施しているほか、普及啓発活動(ちよだ猫まつり)等で飼い主に対し、適正飼育・終生飼育・動物愛護精神の活動している。

・10年後の平成22年までは、増減を繰り返していたが、22年頃から少しずつ減少傾向に転じ、15年後の平成27年からは、明らかに減少して、令和5年には1頭まで減少しているが、行政が予算補助しても長い道のりであることを考えるとボランティア活動の範疇ではないと思う。

# 行政視察報告書

令和 6 年 11 月 27 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 玉城 政哉

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	市民経済委員会 行政視察
2. 期 間	令和6年11月11日(月)～令和6年11月13日(水)
3. 視 察 先	①東京都 ②東京都千代田区
4. 調査内容	①東京港について ②国際交流について・猫問題について
5. 参加者	〔市民経済委員会〕 委員長 兼本 光治 副委員長 高屋 優 委員 伊礼 正、大城 直、玉城 政哉、仲程 孝 事務局 伊藤 靖
6. 視察先 対応者	①東京都港湾局港湾経営部港湾営業専門課長 東京都港湾局港湾経営部振興課統括課長代理 計2人 ②千代田区議会事務局職員 地域振興部国際平和・男女平等人権課長、国際平和係長、職員 保健福祉部地域保健担当部長・千代田保健所長 保健福祉部参事、保健福祉部地域保健課動物愛護担当係長 計7人
7. 概要及び所見	<u>※写真など挿入可。</u>  東京港について 首都圏の生活と産業を支える東京港  東京港における貨物取扱状況（輸出入別）令和5年速報値 東京港で令和5年に取り扱った貨物の総計は約8200万トン 輸入・輸出比率（重量ベース）は約3：1となっており、輸入港としての性格が強いという特徴。  外貿コンテナ貨物輸出1096万トン 外貿コンテナ貨物輸入3224万トン ○外貿コンテナふ頭の概要 東京港内には4つのコンテナふ頭が整備され、年間400万TEU以上のコンテナを取り扱っている 1TEU=20ftコンテナ1個分。

○国内主要港の外貿コンテナ貨物取扱量

背後に大消費地を抱える東京港では、全国の外貿コンテナ貨物量の4分の1を取り扱っている。

○都県別の東京港の利用状況

関東地方から東北地方など東日本全体の広範囲にわたり東京港が利用されており、特に北関東地域での東京港利用率は、7割を超えている。

○東京港は以後の道路ネットワーク

東京港の背後には、首都東京を中心とする充実した道路ネットワークが形成されている。

交通利便性の高い臨海部や環状道路等の沿線に大型物流倉庫の立地が進展。

○国内海上輸送の航路ネットワーク

外貿コンテナ貨物の国内輸送においては、仙台港や清水港など日本各地からのフィーダー航路網が充実。

国内貨物の長距離輸送については、RORO船等の国内航路の約半数の14航路（週40便）が東京港へ就航。

○鉄道輸送ネットワーク

大井コンテナふ頭に近接して、JR貨物の「東京貨物ターミナル」があり、鉄道輸送の利便性が高い。

海上コンテナ輸送は、東京ター盛岡夕間を「東北エクスプレス」が毎日1往復（月から土）運行。

○東京港のさらなる機能強化に向けた取組

東京港の機能強化の必要性。

東京港ではコンテナふ頭の処理能力を大幅に上回るコンテナを取り扱っており、季節や時間帯によって、ふ頭周辺で交通混雑が発生している。

○東京港の混雑解消に向けた取組

コンテナふ頭周辺の混雑の緩和やコンテナ車の来場時間の平準化に向け、ハード・ソフト両面から様々な取組等を推進し、ゲート前混雑は大幅に減少。

○コンテナふ頭整備による機能強化

東京港では貨物の処理能力を上げるため、中央防波堤外側ふ頭の新規整備や東海・大井ふ頭の再編整備を推進。

○東京港におけるカーボンニュートラルの推進

東京港ではこれまで、太陽光発電などの設置や省エネ型の荷役機械の導入を推進。

令和6年は、再エネ由来電力の導入拡大や水素エネルギーへの転換を進めるなど、脱炭素化を加速。

東京千代田区国際交流について

大使館等との連携交流に関する取組について

令和5年度国際教育推進協議会における「大使館交流プログラムの体験」

指導課では、千代田区立学校園の国際教育担当を対象に、国際教育の在り方、方法について年3回の研修をしている。国際教育担当としての資質向上を図るとともに、各校園における国際教育の充実に資することを目的としている。

令和5年度は「関係機関と連携した国際教育の推進」を年間テーマとし、10月8日に駐日インド大使館に参加者全員で訪問。参加者は大使の講演や大使館の施設見学等を通して、学校園における国際教育推進の在り方について、理解を深めることができた。

地域の国際化促進

「国際平和都市千代田区宣言」の趣旨の一つである「未来に向かって、世界の人々と友好を深め、同じ地球の仲間としてお互いを理解し会おう」をテーマに区内にある大使館や外国公館の皆様のご協力によって実施している。

区内大使館のブース、ワークショップ、ステージパフォーマンスを実施。どなたでも来場し、ご参加いただけるイベントを実施。

また、千代田区では海外調査事業（国際交流体験ツアー）ちよだボランティアセンター、国際交流・協力ボランティア養成講座の実施など様々な活動が開催され、国際交流を深める活気あふれる取組が行われていると感じた。

# 行政視察報告書

令和 6 年 11 月 21 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 仲程 孝

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	市民経済委員会 行政視察
2. 期 間	令和6年11月11日(月)～令和6年11月13日(水)
3. 視 察 先	①東京都 ②東京都千代田区
4. 調査内容	①東京港について ②国際交流について・猫問題について
5. 参加者	〔市民経済委員会〕 委員長 兼本 光治 副委員長 高屋 優 委員 伊礼 正、大城 直、玉城 政哉、仲程 孝 事務局 伊藤 靖
6. 視察先 対応者	①東京都港湾局港湾経営部港湾営業専門課長 東京都港湾局港湾経営部振興課統括課長代理 計2人 ②千代田区議会事務局職員 地域振興部国際平和・男女平等人権課長、国際平和係長、職員 保健福祉部地域保健担当部長・千代田保健所長 保健福祉部参事、保健福祉部地域保健課動物愛護担当係長 計7人
7. 概要及び所見	<u>※写真など挿入可。</u> 東京港について 11月12日東京港に関する物流及び国際クルーズ船寄港について、東京港現地に向かい、都の担当職員から説明を受ける貴重な時間となった。 まずは、その面積に驚き、普段都心に向向いても感じることのできない港湾を中心に発展してきた「東京」を体感することとなり、歴史的に培われた物流に関する機能と人の流れは圧巻である印象を受けた。 輸入・輸出比率は約3：1となっており輸入港としての性格が強い特徴は日本の生産性とも関連しており国全体の課題であると感じた。 中城湾港でも降ろせる貨物はあっても積み込む貨物が無ければ荷主や船舶会社も積極的に利用できないという課題と似てはいるが、規模の違いにより克服されている印象であり、いまだ中城湾港では整備予定のない「ガントリークレーン」が30機から40機程度整備されており、コンテナふ頭の再編整備や混雑を解消するためにヤードの拡張が決定しているなど、まだまだ機能強化を図らなければならないと担当者から聞かされた。

また、隣接する東京国際クルーズターミナルの見学もさせていただき、世界最大のクルーズ客船に対応可能な巨大な施設は、初見では大きすぎるのではと思ったが、何千人という外国人観光客の入国検査を行うには相当であるとの印象を受けました。

いずれにしても普段なかなか見ることのできない東京港の詳細に触れたことに感謝申し上げます。

#### 国際交流について

千代田区は土地柄、大使館が多く存在し国際交流が盛んな歴史があり、人口の約6%が外国人であり、その国籍も72ヶ国にも及び、私の想像する国際交流とは少し違う印象を冒頭は受けました。

千代田区では「国際平和都市千代田区宣言」の趣旨のもと、区内に存在する大使館の国々を中心に国際交流フェアを毎年開催しており、なかなか触れることの少ない中南米やヨーロッパの文化に触れることは、子どもたちに対して、諸外国に興味を持つ大きなきっかけになっていることと推察されます。

また、海外事情調査事業と銘打った、区内の青少年を対象にした国際交流体験ツアーも行っており、希望者の負担金も平均10万円程度ありながら、毎年の希望者が30名程度いることは驚きである。

その他、外国人住民支援も盛んにおこなわれており、区内にボランティア活動を行う団体が120団体ほど登録しており、個人ボランティア60名と合わせて、外出付き添いや話し相手、余暇活動のサポートなどを積極的に支援しており、さらなるボランティアの充実を目指し、国際交流・協力ボランティア養成講座を実施していることは特筆すべき点である。

#### 猫問題について

うるま市における飼い主のいない猫に関連する糞尿被害や、さくら猫事業の充実を目指して、少しでも参考になればとの思いで千代田区の事例視察に出向いたが、わが市の何十年も先を行く事業は量・質ともに私の想像をはるかに超えた内容であった。

TNR事業を徹底した結果、平成22年度を境に、自然淘汰で減少傾向が一気に強まり平成23年度に全国に先駆けて「殺処分ゼロ」を達成し、現在に至るまで継続していることは全国でも先進地と言われるゆえんであると感じた。

現在ではTNR事業をさらに充実させたTNTA事業も実施しており、保護した猫を人に慣らし、譲渡するまでの取組みは、さらなる予算がかかることとなるが、ボランティア団体の積極的な関りと区民の理解が進む地域であることを強く感じた、また、猫のケガや病気の治療費助成額も令和に入り総額1,000万円を超えていることも驚きであり、猫を預かる団体に対し、「シェルター補助金」なる助成制度を新設したことはボランティア団体へのさらなる支援につながるものと感心するばかりである。

また年に一度開催している「ちよだ猫まつり」と称した普及啓発活動等は、ペットの適正飼養・終生飼養を周知し、動物愛護精神を高める活動として高く評価する内容であった。

最後に本市の課題に関連しての視察となったが、それぞれに規模に違いがあり、驚くべき内容も多くあったが、将来の目指すべき事業であることも忘れずに、今後もうるま市発展に尽力すべきだであると強く感じる内容であった。

忙しい中、視察を受け入れていただいた、東京都と千代田区に対してこの場を借りて感謝申し上げます。